

【理学部】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目 代数学・幾何学 IIB
- ・担当教員 緒方 勇太 准教授
- ・実施日/場所 12月5日(金) /万有館4階 B406 教室
- ・参加人数 教員2名(+緒方准教授)、事務職員2名、学生35名

②ワークショップ：

- ・実施日/場所 (同上)
- ・参加人数 教員2名(+緒方准教授)、事務職員2名、学生9名
- ・ワークショップでの意見交換内容

授業担当教員へのフィードバック（教員だけでなく学生からも）を行った。また、次回以降の公開授業等に反映する目的で、この授業以外でも気になることがあれば、と学生から意見を募った。学生の学びのためには、教員・学生双方で授業をつくってゆくという意識醸成が必要であることを再確認した。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

- ・テーマ パブリックスピーキング・研修
- ・概要 教員にとって必要なパブリック・スピーキングのスキルを身につけるための研修を実施した（講師は現代社会学部の脇浜教授）
- ・実施日/場所 6月11日(水) /万有館4階 B406 教室
- ・参加人数 教員12名、事務職員3名

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

公開授業などを通じて得られた気づきとして、やはり少人数教育という理学部の特徴が活かされており、授業に対する満足度が高いことが長所になっていると感じられた。コロナ禍で培われたオンライン授業の実施スキルも平時から活かされている。学習成果実感調査などでも学生の満足度についても、理系学部の一般的な特徴と思われるが、とくに卒業研究に相当する授業科目「特別研究」に対する満足度の高さは特筆すべきものがあつた。教員も多くの時間を4年次生の「特別研究」にかけていることもあり、学生の満足度は、教員が学生にかけた時間にしたがって増えていると思われる。しかし一方で、授業に参加する姿勢・意欲が低い学生が学習成果実感調査や公開授業後のワークショップには参加していない可能性があり、そうした学生の状況や意見を反映できるような仕組みづくりと、入学時にもっていたはずの学ぶ意欲を維持できていない原因の究明が、今後の課題である。

3. 次年度に向けての取り組み

教員と学生の距離が近く、教員1名あたりの担当学生数が少ない（少人数）教育であることが理学部の大きな長所である。この特徴を活かして、学生と教員がともに学ぶ場（外部講師を招聘したタイムリーな話題提供、および、その背景についての本学教員による事前レクチャーなど）を

通じて、学生と教員の一体感の醸成をはかるなど、「学ぶ」ということに対する姿勢をどう伝えるか、といった点についても検討を進めて行く必要がある。またこれと平行して、刻々と変化してゆく社会の潮流をとらえ、社会の付託に応えられるよう、産業を意識したカリキュラム実現を目指した改革についても不断の努力で取り組まなくてはならない。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。